

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390900037		
法人名	社会福祉法人 福実会		
事業所名	認知症対応型共同生活介護 ちかのり苑		
所在地	岡山県高梁市落合町近似1324-2		
自己評価作成日	令和元年12月25日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	fukumikai.or.jp/wp/施設紹介/グループホームちかのり苑/
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート		
所在地	岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO会館		
訪問調査日	令和2年1月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然環境に恵まれた地域で、施設内は、明るく広く、開放的な空間となっている。利用者や家族が、安心して利用できるよう、併設施設と協力連携も図りながら、サービス提供に努めている。
また家族と信頼関係が築けるよう、日ごろから様子を報告したり、体調に変化がある時などは、随時連絡している。
施設行事を開催する場合は、家族に案内状を送付し、参加をお願いしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「皆さん、おはようございます。私達は・・・と突然の訪問者の挨拶を笑顔ですんなり受け入れて下さった両ユニットの利用者さん。素敵な笑顔と「お話ししたいな」と訴える眼差しから日々の暮らし方や心の豊かさを感じる事が出来た。その後懇意にお話させていただいたAさんからは、自分の一生について教えてくれた後「娘を選んでくれたこのホームで私は幸せ」と語ってくれた。この法人は、高梁市だけでなくAさんのように広範囲の地域の、高齢者やその家族の心の支えになっている。山の傾斜を上手に活用したホームは、各居室や広いリビングがゆったり・明るく、他のホームでは見られない工夫がある。H12年に法人を設立し、ケアハウス・GH・小規模多機能と開所して、利用者の状態によって対応出来る状況が地域の高齢者福祉に大きく貢献している。運営推進会議の記録からも、利用者や家族の思いを尊重しようと真摯に向き合う姿勢が強く伝わってくるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を掲示し意識の共有を図り、ミーティング等を活用し、共通認識を持つようになっているが、年齢、経験等で理解度に差がある。	日頃から理念は意識して振り返り職員間で共有し合うように心がけている。最近一方のユニットの職員体制に問題があったが、「両ユニットがお互い助け合う・支え合う事で目標である理念の実践につなぐ事が出来た」という話を聞いた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的とは言えないが、地域に施設行事参加の呼びかけ、また地域の花見やサロン等への招待が定着しつつある。 中高生のボランティアを受け入れは、恒例となりつつある。	高梁は由緒ある街であるが学生も増え若い人との交流もある。例えば認知症サポーター養成講座を通して小・中校生から大学の学生さん等。また地域の人とは福祉のつどいや認知症カフェで、文化交流等のお付き合いもある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	まだ認知症サポーター講座を受講していない新規採用の職員など、積極的に受講するよう勧めている。 また、認知症カフェに参加し、認知症に対しての理解を図っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に1回実施している。	GHと法人の他施設合同の会議を規定通りに実施している。地域住民代表として民生委員・利用者家族の参加があり、現状報告・事故ヒヤリハットの報告等の他、「苦情及び相談」も組み入れて、有意義な運営推進会議を実施している。	地域密着型のGHとしてこのホームのようにリスク面もオープンにして参加者の意見を求めている所は未だ少ない。地域の方や家族の発言をいただいてホームの運営につないでいる状況を継続し、さらにステップアップして下さい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要に応じ、相談等をしている。	GHとして市町村と連携を持つ事は少ないが、利用者の入居の関係で連絡を取り合ったり、認知症サポーター養成講座に関する件で話し合い協力し合っている。また、介護保険関連の業務の中で指導を受けたり連携を取っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束委員会を中心に研修会を開催し、知識や理解を深めている。玄関の施錠は、構造上やむを得ないため、契約時に家族等に説明し、理解を得るようにしている。	禁止の対象となる身体拘束だけでなく、利用者的人格を尊重したケアの為に施設内研修を開催している。例えば「スピーチロックに気をつける」という課題で資料をもとに自分の行動を反省してみたり、利用者の立場になって考える等、自己研鑽を積んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	拘束委員会を中心に開催する研修に参加し、知識や理解を深め、家族等状況は面会時の機会を捉え、状況把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度についての理解度は依然職員間で差がある。制度のパンフレット等資料の配布はするが、学ぶ機会は設けられていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	丁寧に説明し、理解、納得して頂けるよう取り組んでいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や家族会などを利用し、家族等の意見、要望を聞き、運営費反映させるよう努めている。	運営推進会議の記録から家族の意見がよく受け止められている事が理解出来たが、家族の面会時も職員は綿密な話し合いをし要望を聞いている。また何かあれば個別に電話をしたり、請求書を送付する時、お便りを同封するようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議等を活用し、意見の集約に努め、運営に反映できるよう努めている。	ユニット会議の状況は利用者に関する問題やホームの運営に関わる事例をきちんと話し合い、情報を職員間で共有している事が記録からよく理解出来る。日頃から職員間で何でも言い合える間柄で、職員の休憩時間の設定等についてもよく話し合っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	正規職員が少なく、臨時、パート職員が多く、異動、離職が頻繁にあった為、職場環境の整備には程遠かった。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修など、あらゆる機会を捉え、参加するよう声掛けはしているが、参加する職員が固定し、職員の不足により、参加そのものができにくくなっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修やケアマネ会により多職種、他事業所との交流機会はあるが、上記同様、参加する職員が固定している傾向にある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接、契約時に本人、家族から情報収集し、カンファレンスで情報の共有を図り、サービス提供に繋げている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からの要望等に耳を傾け、家族の信頼が得られるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話し合いを充分行い、出来るだけそのように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一方的な介護にならないよう、日常的作業など、常に声掛けをし、役割を持って生活出来るよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	時間にとらわれず、いつでも来苑できることを伝え、本人と家族が面会しやすいようにし、本人を支えるのが施設だけではなく、家族と共に協力し支えていく共通認識を持つよう働きかけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所の方など、馴染の人が尋ねて来た時は、気楽に話ができる様、限られた場所ではあるが、環境を整え、再度来苑していただけるようにしている。	面会が頻回にある家族や知人・友人等の訪問もあり、法人の併設他施設へ入所している家族と交流が続いている人もいる。利用者の中には、馴染みの美容師が来てくれている人もいて、これまでの人や場との馴染みの関係継続が出来ている。	GHIは自立からターミナルまでを目的とした法人施設の中にあり、利用者が元気な時から職員とも顔馴染みの間柄の人も多く、利用者にとっても家族にとっても安心出来るという最大のメリットを活かした支援を今後も続けて下さい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	性格上、認知度にもよるが、攻撃的な言葉を発するような場合は、その都度言わないように伝えるなど、一人ひとりが孤立しないよう働きかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時に説明したり、請求書送付時に手紙を同封しているが、お礼はあっても相談等はないのが現実である。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その都度、職員間で情報交換をしながら把握し、実施に向け取り組んでいる。	日頃の関わりの中から、そして会話の中からその人の思いや意向を把握しようと努めている。利用者の笑顔やおしゃべりから、日頃から職員とのコミュニケーションがよく取れているのが確認出来た。意思表示が難しい人は仕草や表情から推察するようにしている。	記録整備委員会を設け、日々の介護記録等の書き方や情報共有に取り組んでいるが、パソコン入力した記録のみでなく、申し送りノートや連絡ノート等で筆記での記録も有効に活用して情報共有して下さい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面接での家族の話し合いや、担当ケアマネ等から情報で把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録などで把握に努めるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の意向は把握しづらいが、できるだけ本人の要望に近づける介護計画を、家族や関係者と話し合いながら作成している。	本人・家族の意向や要望をよく聞いて、ニーズ(課題)を抽出し、日々のケアに反映させるように職員間で話し合いながらケアプランを作成している。また、心身の状態(ADL)を把握し、定期的なモニタリングをして現状に即したケアプラン作りを行なっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子の記録はできていても、気づきや工夫を個別には記録できていない。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にもまれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同一法人内の他事業所が開催する行事等に参加をしたり、知り合いがいると訪問したりして、気分転換を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散髪ボラ、地域住民との避難訓練、掛かりつけ医の往診などを利用し、安全に生活が送れるよう取り組んでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	職員間で情報交換を行い、本人、家族等の希望に沿い、また適切な医療を受けられるよう情報提供書を提出している。	希望するかかりつけ医を受診してもらっているが、定期的に内科・歯科等のホームの協力医による訪問診療もあり、気軽に相談に乗ってもらえる。受診の際には情報提供書を提出し、利用者の状態を伝えて介護と医療の連携を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護師が日常的に関わっているが、適切な受診が必要な場合など、法人内の他事業所の看護師や、医療機関の看護師などと連携を図り適切な医療が受けられるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	適時病院に訪問し、MSWや看護師と情報交換や相談をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に説明し、同意を得ている。	法人にはGH・特養等、利用者の状態によって対応出来る施設が充実しているので、医療が必要となったり、重度化が進んだ場合は入院や特養への移行となるケースが殆どであり、ホームでの看取りの事例はないが、本人・家族が希望すればホームで出来る限りの支援をしていこうと思っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故対策委員会により、マニュアル作成され、研修や、消防署の救命講習などで、知識を深めている。実践に関しては、職員間で格差がある		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練を実施し防災委員会の研修も行っている。職員全員が、身につくよう取り組んでいる。	法人施設合同で避難訓練を実施している。山の傾斜を活用した立地になっているので、「土砂崩れ」等の危険区域に指定されている関係上、特に自然災害への危機管理意識は高く、法人内の協力体制・連携もしっかり出来ている。また、併設施設にAEDも設置しており心肺蘇生法等の研修も定期的に行なっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	同じ訴えが続くと口調が厳しくなったり、苦手な相手だと出来ない時もあるが、継続して努力している。	利用者の症状によっては共同生活に支障の出る事も時にはあるが、人として尊重する事を第一に考え、その都度適切な対応方法を職員間で話し合っている。また、接遇マナーの研修をして言葉遣いにも気をつけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限り自己実現できるよう声掛けをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせる事が困難な場合は、出来るだけ理解してもらえよう説明し、強制や強要のないよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来るだけ本人の意思を尊重したり、好きな服があれば、それを着て貰うようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備は難しいが、下膳、食器、お盆ふきなど出来る人に、出来る事をしてもらっている。	一人ひとりの食事形態に合わせ、普通・刻み・ソフト食等を提供し、食事介助が必要な人もいるが殆どの人は自分の箸やスプーンで食べ、例え時間がかかっても職員はその人のペースを重視して優しく声かけ、見守りをしながら食べ終わるのを待つ等、尊重する場面が見られた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	必要に応じて、管理栄養士に相談し、健康状態を保てるよう取り組んでいる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	実施している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者の重度化により、自分でトイレの行ける入居者の方が少なくなり、自立に向けた支援は難しくなっている。	排泄が自立で布パンツ使用の人もいるが、全体的にはリハビリパンツやパット併用の人が多い。日中は2～3時間、夜間は4～5時間おきに声かけ、トイレ誘導をしているが、自立している人でも状態を見ながら必要に応じて声かけをして自立支援につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬ばかりに頼らず、きなこ牛乳や運動など、個々に応じた予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日や時間は決めているが、その中で、出来るだけ本人の希望に沿うようにしている。温泉宅配便や、ゆず湯などで、入浴の楽しみを感じてもらっている	入浴は最低でも週2回を基本にしており、一人ひとりの心身の状態に合わせて、浴槽に浸かる、シャワー浴、二人介助等、全員偏りなく入浴出来るように支援している。また、失禁、皮膚の状態等を見ながら清潔保持にも努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調等を考慮し、その時に応じた支援に取り組んでいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容の把握に努め、事故のないよう、毎回確認し合いながら服薬支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	全体的な支援は出来ているが、毎回一人ひとりに合わせた過ごし方は出来ていない。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	一人ひとりの要望に沿ってはないが、天候が良い日には戸外に車で出かけたたりしている。	花見、紅葉狩り、ドライブなど四季折々の景観や非日常を楽しんでもらうような外出支援に努めている。また、広い法人の敷地内を散歩したり、ゴミ出しと一緒にいってもらおう等、日光浴・外気浴はよく行っており日頃から気分転換をしてもらう機会を多く作るようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人で現金を持ち、支払いをすることのないよう配慮し、全額施設が立替を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望のある方には対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	整理整頓に努め、レクで作成した作品を飾るなど季節を感じられる空間づくりに努めている。	リビングは広く、天井も高く、そして窓も多いので採光をふんだんに取り入れた開放的でゆったりとした空間になっている。一角には畳コーナーもあり様々なイベント時に活用している。利用者はそれぞれ、ソファ、テーブル等自分の好きな場所で思い思いに好きな事、得意な事をして過ごしていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	部屋とホールを自由に動き、思うように過ごせるようにしている。テレビ前のソファで、くつろげるよう場所作りも工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけ本人の馴染みのあるものの持ち込みを依頼し、混乱されないよう配慮している。	居室は全室南向きであり陽当たりも良く明るい。愛用の鏡台や仏壇を持ち込んだり、家族の写真を飾る等、家庭の延長線上のような居心地の良い居室になっており、湿度・温度等の空調にも気を配り快適な環境を維持するように努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行の妨げや、事故防止の為、動線に物を置かない。トイレなど、貼り紙をして迷わずスムーズに行けるよう工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容

